



受付第04A1571号
受付日：平成16年 9月 6日

品質性能試験報告書

依頼者 株式会社 カ ナ イ

常務取締役 並 木 高 様

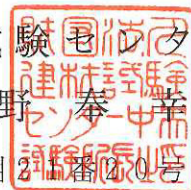
埼玉県八潮市西袋717-1

試験名称 枠組壁工法用接合金物を使用した接合部の性能試験

標記試験結果は本報告のとおりであることを証明します。

平成16年12月24日

財団法人 建材試験
中央試験所長 勝 野
埼玉県草加市稲荷5丁目



品質性能試験報告書

試験名称	枠組壁工法用接合金物を使用した接合部の性能試験						
依頼者	株式会社 カ ナ イ						
試験項目	引張						
試験体 (依頼者 提出資料)	<p>1. 接合金物 商品名：タイシンコーナーⅡ（2×4） 用途：柱脚に使用する金物 寸法：120×33.2×40mm，厚さ3.2mm（図-3参照） 材質：SGHC Z27（JIS G-3302）</p> <p>2. 接合具 たて枠側：3#六角スクリューφ6.0×75，4本使用 長さ；75mm，ねじ部の長さ；60mm，ねじ部の外径；6.25mm 谷の径；4.45mm，ねじ山のピッチ；2.82mm，ねじ先の形状；切り刃先 下枠側：3#六角スクリューφ6.0×120，2本使用 長さ；120mm，ねじ部の長さ；60mm，ねじ部の外径；6.25mm 谷の径；4.45mm，ねじ山のピッチ；2.82mm，ねじ先の形状；切り刃先 材質；SWRCH22A（JIS G 3507）相当品であり，下記の化学成分を満足する。 C（0.18～0.23%），Si（0.10%以下），Mn（0.70～1.00%） P（0.030%以下），S（0.035%以下），Al（0.02%以上） 表面処理；ダクロタイズド処理</p> <p>3. 使用枠組等 たて枠：枠組壁工法構造用製材，JAS甲種枠組材2級，樹種；S-P-F，寸法；38×89mm 下枠：枠組壁工法構造用製材，JAS甲種枠組材2級，樹種；S-P-F，寸法；38×89mm 床根太：枠組壁工法構造用製材，JAS甲種枠組材2級，樹種；S-P-F，寸法；38×140mm 床合板：構造用合板，JAS特類2級，厚さ；30mm</p> <p>4. 試験体数：7体（うち1体は予備試験体） 参 照：図-1～図-4（試験体の形状・寸法）</p>						
試験方法	「2002年 枠組壁工法建築物構造計算指針」（監修／国土交通省住宅局建築指導課・木造住宅振興室，発行／社団法人日本ツーバイフォー建築協会）の第V編「材料および接合部の許容応力度等を定める試験・評価方法とその解説」の1.2.3「接合部の基準許容応力および基準終局耐力並びに基準剛性（繰返し加力接合部試験によるもの）」に準じて行った。その詳細を表-1に示す。						
試験結果	試験体		試験許容応力時		試験終局耐力		試験剛性 (K) kN/cm
	記号	番号	(Py) kN	(δy) mm	(Pu) kN	(δu) mm	
	TC2	0	8.9	2.4	14.1	12.0	37.1
		1	9.5	2.1	15.2	16.8	45.2
		2	9.1	1.1	14.3	9.6	82.7
		3	10.3	1.9	16.1	12.5	54.2
		4	9.6	2.1	14.8	12.5	45.7
		5	11.3	2.0	17.1	12.6	56.5
6	9.4	1.6	15.5	11.5	58.8		
平均		9.9	1.8	15.5	12.6	57.2	
標準偏差 s		0.81	0.39	0.99	2.36	13.70	
5%下限値		8.0	—	13.2	—	—	
基準値		基準許容応力 5.3		基準終局耐力 13.2		基準剛性 57.2	
(注) 基準許容応力は試験許容応力の5%下限値に2/3を乗じた値であり，基準終局耐力は試験終局耐力の5%下限値である。また，基準剛性は試験剛性の平均値である。 参 照：表-2（2/3Pmax時，最大荷重時及び破壊状況），図-5（荷重-変位包絡線の比較） 図-6（荷重-変位曲線，包絡線及び完全弾塑性モデル），写真-1～写真-6（破壊状況）							
試験期間	平成16年11月25日～26日						
担当者	構造グループ	試験監督者	橋 本 敏 男	試験責任者	高 橋 大 祐	試験実施者	室 星 啓 和
試験場所	中央試験所						